令和 4 年度 東海国立大学機構 図書館プロジェクトチーム活動報告書

プロジェクトチーム名
オープンサイエンスプロジェクトチーム
サブチーム
広報サブチーム, メタデータサブチーム, データ利活用サブチーム, 岐大サブチーム
メンバー
端場純子（主査） 石田綾子 大野尚子 大平司 鬼塚昌枝 田中幸恵 直江千寿子 林万純 舩越美音花 眞野博和 渡邉通江
オブザーバー
福井課長, 佐藤課長
令和 4 年度の主な取組みと目標
学術データ公開に関する整備を行い, オープンサイエンスを推進する。 ● 学術データ基盤整備基本計画の下, 学術データ公開の推進 ● 学内融合研究におけるデータ取扱いの検討 ● 国立情報学研究所と宇地研との共同研究 ● 岐大における研究データの取扱い検討
取り組みの概要

今年度の取り組みに対し 4 つのサブチームを設けて活動を行った。

今年度の取り組みとサブチーム

サブチーム	学術データ基盤整備基本計画の下，学術データ公開の推進	学内融合研究におけるデータ取扱いの検討 / 国立情報学研究所と宇地研との共同研究	岐大における研究データの取扱い検討
広報	○ ガイダンスのコンテンツ作成・実施		
メタデータ		○ JPCOARスキーマを用いた研究データ登録	
データ利活用	○ デジタルアーカイブ検討・学内データ収集		
岐大			○ JAIRO Cloudへのデータ移行

1）広報サブチーム

学術データ基盤整備基本計画の施策「学術データの公開促進を目的とした大学構成員向けガイダンスを、2023 年度より定期的に実施する」を前倒しで実施した。より多くの研究者に聞いてもらえるよう， FD 形式とし, 一般的な RDM の必要性と NAGOYA Repository を含む各種リポジトリに学術データを登録できることの周知, オープンサイエンス・オープンアクセス（OS・OA）支援サイトの宣伝の 3 点をスライドにまとめ, 各部局の教授会等で質疑含め 15 分程度の説明を行

った。4～5 月に企画し，6 月から開始，11 月までに 16 部局でオンライン・対面実施，2 部局で動画配信を行った。動画は要望に応じて作成したもので，他に英語化の希望にも対応した。動画はいつでも見られるよう，OS・OA 支援サイトに学内限定公開した。ガイダンスは総じて教員の関心が高く，多くの質問があったため，代表的なものを FAQ としてまとめて OS・OA 支援サイトから参照できるようにした。
他に広報物として研究データのリポジトリ登録方法について簡単に説明したチラシを作成し，OS・OA 支援サイトに掲載した。

「名古屋大学附属図書館オープンサイエンス・オープンアクセス支援」Web サイト
https://www.nul.nagoya-u.ac.jp/oap/os/index.html

2）メタデータサブチーム
昨年度，名古屋大学宇宙地球環境研究所が中心となって行った「研究データ管理実証実験」を今年度は NII との共同研究として継続することになり，図書館も引き続き参加した。宇宙科学分野の一部で標準的に使われている SPASE というメタデータスキーマをベースとして記述された内容を，国内の機関リポジトリで使用されている JPCOAR スキーマに対応させるためのマッピング作業を行い，実際に変換したメタデータ 277 件を NAGOYA Repository に登録した。また，専門分野におけるメタデータスキーマの利用有無を調べるため，試行的に宇宙地球環境研究所の教員を対象としたアンケート調査を実施した。他に観測データのような大容量データの保管ストレージとして名古屋大学情報基盤センターが管理するコールドストレージの活用について検討し，図書館でも書き込みのテストを行った。
メタデータスキーマのマッピングについて，11 月にオンライン開催された研究データ利活用協議会（RDUF）の公開シンポジウムで発表した。

「宇宙科学分野のメタデータスキーマ SPASE と JPCOAR スキーマとのマッピングについて」 直江 千寿子（名古屋大学）
（資料）https://japanlinkcenter.org/rduf/doc/rduf2022_LT_2.pdf
（動画）https://youtu.be/VijpZf1gFsk

3）データ利活用サブチーム
高木家文書を始めとするデジタルアーカイブについて，国際標準規格への対応や機能強化，学内データの集約と公開プラットフォームの一元化のため，昨年度に続き新しいプラットフォームの導入を検討した。昨年度末に学術データ基盤整備

WG へ提出した「学術データ共有プラットフォーム」案は機構のデジタルユニバーシティ構想で検討されることになった。並行してベンダーや他大学から聞き取り調査を行い，費用規模を算出した。また，JSTOR が提供するデジタルコレクション公開サービス Open Community Collection（OCC）がデジタルアーカイブの移行先あるいは海外への発信のプラットフォームとして有効であるか検証するため，パイロットプログラムに参加し，貴重書の一部を公開した。
もう一つの活動として，学内の研究データ公開を進めた。昨年度実施した学内データベース調査の結果から，リポジトリで引き取り可能なデータセットについて管理者へインタビューを行い，「吉崎誠藻類コレクション」「蔵書票コレクション」「中国年画コレクション」「華東政法大学作文コーパス」をリポジトリに登録，公開した。

JSTOR OCC （2023 年 6 月末まで）
https://www.jstor.org/site/nagoya-university/

4）岐大サブチーム
研究データ公開に対応するため，岐阜大学機関リポジトリのシステムを JAIRO Cloud（WEKO2）へ移行した。6 月から準備を開始し，サンプルデータの抽出とインポート，確認作業等を経て 1 月に本番移行を実施した。4 月の正式公開に向けて 2-3 月はデータの確認や調整を行った。JAIRO Cloud（WEKO2）利用機関は令和 5 年度中に JAIRO Cloud（WEKO3）へ移行することが決まっており，次の段階への準備を並行して進めている。

岐阜大学機関リポジトリ 新 URL（2023/4/10～）
https://gifu-u.repo.nii.ac.jp/

5）その他の活動
・国立大学図書館協会東海北陸地区助成事業として，研修会「知ろう学ぼう考えよう～大学図書館の研究データ管理・公開支援～」を開催した。全国から 122 名の参加があった。
国立大学図書館協会地区協会助成事業成果（東海北陸地区）
https://www.janul.jp/ja/regional/tokai/promotion_tokai

・「大学図書館研究」123 号（2023 年 3 月末刊行予定）に名古屋大学附属図書館の RDM に関する取り組みについて紹介する記事を寄稿した。

「大学図書館研究」（J-STAGE）

https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jcul/-char/ja
今後の展望
・学術データ基盤整備基本計画は 2023 年度までの施策を定めているため，2023 年度の施策を実施するとともに，来年度以降の目標を立てる。 ・名古屋大学が共同実施機関となっている，文部科学省の「AI 等の活用を推進する研究データエコシステム構築事業」（2022～2026 年度）について，学術データ基盤整備 WG メンバーとして協力していく。 ・名古屋大学宇宙地球環境研究所の教員と協力し，メタデータスキーママッピングの他機関への展開や専門分野のメタデータスキーマ調査を進める。 ・岐阜大学機関リポジトリの JAIRO Cloud 次期バージョン（WEKO3）への移行を行う。 ・2024 年度から科研費の交付申請時に研究成果やデータの保存・管理等に関するデータマネジメントプラン（DMP）の提出が求められるようになるため，必要となるサポートが行えるよう準備する。 ・リポジトリに登録する際の研究データのメタデータ項目について，「公的資金による研究データの管理・利活用に関する基本的な考え方」や「メタデータ流通ガイドライン」を参考にしながら検討を行う。 これらのことを行いながら，引き続き研究データの公開を進めていく。